国際交流

平成９年９月30日創刊
平成26年３月31日発行（第33号）
二松学舎大学国際交流センター（学生支援課）
〒102−8336東京都千代田区三番町6−16
Tel:03-3261-5751

◆目　　次◆

平成 25 年度交流会実施報告 …… 1
　国際政治経済学部　国際政治経済学科１年　張輝
平成 25 年度第 10 回外国人留学生日本語スピーチコンテスト開催 …… 2
学長賞受賞スピーチ …… 3
　交換留学生（台湾・中国文化大学）梁芸翔
派遣留学修了報告 …… 4
　文学部４年　北山泰匡
　文学部４年　田坂将洋
　国際政治経済学部４年　角田陵亮
附属柏高校生との交流会 …… 6
　国際政治経済学部　国際政治経済学科３年　陳梅琴
　国際政治経済学部　国際政治経済学科４年　魏嘉葆
　交換留学生（中国・北京大学）劉千里
平成 25 年度国際交流年末懇親会報告 …… 8
平成 25 年度春セメスター　派遣留学生紹介 …… 8
国際交流センターからのお知らせ …… 8
　TOEFL-ITP（団体割引）の募集
　オーストラリア・韓国（中国・台湾）への派遣留学生募集説明会
　夏期中国語・歴史文化研修 / 夏期オーストラリア語学研修募集説明会
　編集後記

平成25年度交流会実施報告

箱根・鎌倉小旅行

国際政治経済学部　国際政治経済学科１年　張　輝

すごく期待した箱根・鎌倉での交流会は、元々10月26日に実施予定でしたが、遅く来た台風の影響で順延することとなり、１か月遅れの11月30日に実施しました 。参加者は交換留学生を含む留学生11名、日本人学生11名と先生たちでした。皆さんと一緒に、いい思い出作りができました。

当日は、とてもいい天気でした。朝の７時半に学校の1号館の前で集合して、８時に出発しました。私はまだ１年生なので、バスの中でとても緊張しました。そのため、なかなか皆さんと交流することができませんでした。ちょっと残念でした。

まず私たちは九段下から出発して箱根芦ノ湖に向かい、３時間くらいかかりました。とても大変でしたが、バスの中で可愛いガイドさんから、箱根や鎌倉についての知識をいろいろ教えてもらいました。皆でしゃべったり、笑ったりしていたので、時間の長さはそんなに感じませんでした。箱根芦ノ湖で、私たちは一緒に伝統工芸の寄木細工を体験し、それぞれ独創的なコースターを作成しました。とても楽しかったです。

寄木細工体験後は、鎌倉に移動して、味亭というお店で昼食をとり、そこで皆で交流しながら、おいしい料理を食べました。その後、鎌倉の象徴で、とても素晴らしい、鎌倉大仏に出会い、仏教の神聖さを感じ、すごく感動しました。

その後は、鶴岡八幡宮を参拝しました。その境内に入ったとき、紅葉がすごくきれいだったので、びっくりしました。境内でいろいろ買い物もしました。大切な家族のために、御守も買いました。そして日本伝統の結婚式も見学することができました。恥ずかしいですが、花嫁さんがとてもきれいで、景色に集中できなかったです。

参拝後は、小町通りで、自由行動もできました。ちょっと寒くなったけれど、皆買い物する気満々でした。そこでたくさんのお土産を買いました。夕暮れまで、とても充実した１日でした。

この日は、本当に雲ひとつない快晴で、世界遺産となった「富士山」の様々な表情を、朝から夕方までずっと見ることが出来ました。とてもよかったと思います。

帰りのバスの中、皆で撮った写真や動画を見ながら、交換して、またいい交流になりました。最後、皆と別れるとき、とても悲しかったです。もっと一緒にいたかったです。

箱根・鎌倉小旅行は、本当に最高でした。

今度、国際交流のチャンスがあれば、また参加したいです。皆と仲良くなりたいです。とても楽しみにしています。

参加者全員と鎌倉の大仏前にて

平成25年度第10回外国人留学生

出場した留学生、渡辺学長及び審査員の先生方

平成25年12月７日、九段キャンパス1号館507教室にて、第10回外国人留学生日本語スピーチコンテストが開催されました。今回は、海外協定校からの交換留学生３名を含めた、中国・台湾・韓国からの留学生９名が出場し、日頃の学習の成果を披露しました。

最優秀賞である学長賞に選ばれたのは、台湾からの交換留学生の梁苙翔さんです。タイトルは「ココロの地図」。母国の親友との心の交流を表現力豊かに披露し、会場は感動に包まれました。

また、父母会長賞に選ばれた全剣波さんは、「青春と夢」というタイトルで、青春の苦悩の中でも夢を持つ素晴らしさを語り、国際交流センター長賞に選ばれた康政さんは、「小さな夢から大きな夢へ」というタイトルで、祖国から日本、さらに欧米への留学と、大きく膨らむ夢についてスピーチしました。

９名の外国人留学生が異国の地で切磋琢磨し学業に励む中、準備して臨んだスピーチコンテスト。今年度は学生会執行委員をはじめとする日本人学生が、当日の運営をサポートしてくれたこともあり、例年以上の盛り上がりを見せました。多くの来場者の前で、日頃の学習成果を発表するという貴重な機会を得ることで、留学生達の今後の学習への励みになったことと思います。

◇学長賞

「ココロの地図」

交換留学（台湾・中国文化大学）

梁　苙翔

◇父母会賞受賞

「青春と夢」

国際政治経済学部

国際政治経済学科２年

全　剣波

◇国際交流センター長賞

「小さな夢から大きな夢へ」

国際政治経済学部

国際政治経済学科３年

康　政

日本語スピーチコンテスト開催

学長賞受賞スピーチ
「ココロの地図」

交換留学生（台湾・中国文化大学）　梁　笠翔

皆さんは、今までへこんだり挫けそうになったことはありませんか。私には何度もありました。

私にとって人生は一度きりで常に挑戦すべきもの、何も恐れず真っ直ぐ行く、というのが私のスタイルです。しかし、その結果、何回も失敗し、がっかりすることも多かったです。加えて、家庭の事情でいろいろな精神的なショックを受けたこともありました。そんな時、落ち込んだ私に手を差し伸べてくれたのは、「友達や仲間たち」なのです。友達や仲間たちが何か特別なことをして、救ってくれたというわけでもありません。ただ隣で静かに話を聞いてくれたり、話したり、「頑張れ！」と慰めてくれただけです。それなのに、彼らの存在と行動は私にとても大きな力を与えてくれたのです。

小学校の時、私はあまり自分に自信のない子で、スポーツは下手、成績は普通、何の取柄もない子でした。そんな私でも、大事な親友ができました。その親友が私とはまるで正反対で、スポーツ万能、成績優秀で、彼の周りにはいつも人でいっぱいで、非常に人気者でした。当時の私にとって、彼はもうヒーローみたいな存在で、とても憧れていました。彼と仲良くなったおかげで、私の周りにも人が集まってくるようになりました。そして、皆で一緒に勉強したおかげで、成績も良くなり、苦手だったスポーツさえ好きになって、それまでとは違う自分を感じました。以前は人とちゃんと話すことすらできず、暗かった自分も少しずつ変わっていきました。

しかし、人生はなかなか順調に行かないもので、私は壁にぶつかりました。私が小学校の時、父と母が離婚することになったのです。小学校の私にはかなりのショックでした。それ以来、私は笑顔を失いました。そして、小学校の時の友達のいない私に戻りそうな気がして、すぐに立ち直ることができませんでした。

しかし、友達や仲間は、そんな私に対して、何も変わらず接してくれました。暗くなった自分から離れると思っていた友達は、誰も私を見捨てませんでした。友達からの温かい励ましや応援の気持ちで、私は思わず涙が出ました。そしてその瞬間に思い出しました。小さいころから、両親にずっと言われたことを。「沢山の友達ができなくてもいい。ちゃんと、自分のことを考えてくれる親友が一人でもできたらいい」私はその場で泣きながら、親からの言葉を改めて理解しました。

今、私は日本に留学していますが、離れていても、友達は私を支え、励ましてくれています。将来、私たちは、別々の道に旅立ちますが、たとえどんな場所にいても会えなくてもその絆だけは切れないと信じています。私も周りの人を照らすように、積極的になっていこうと心で誓いました。

友達の暖かさと優しさのおかげで、私は大きく変わりました。これから先の長い人生、決して平らな道ではないと思いますが、それでも私は迷いません。心には永遠に友達というココロの地図があるので。

堂々とスピーチする梁笠翔さん

表彰式にて先生方・他の受賞者たちと（筆者：中央）

平成25年度派遣留学修了報告

中国・北京大学

文学部４年　北山　泰匡

カラオケ店にて友人と
（筆者：右）

2012年の８月末、一抹の不安と期待を持って私は北京へ出発しました。以前短期プログラムに参加し、北京大学での生活に憧れを抱いた私にとって、今回の長期留学は大変喜ばしいものでした。多くの外国人たちとともに語学を学び、本科生と同じ授業をとり学習することは、日本にいる限りできることではありませんでしたので、非常に貴重な体験が出来ました。

授業が始まると、クラスで各国からやってきた学生たちが自己紹介をします。エジプト、シンガポール、タイ、ドイツ、フィンランド等本当に世界各国からやってきます。彼らと話してわかったことは、語学に対する熱心さでした。中国に来た当初は、日常最低限の受け答えしか出来ませんでした。日本では中国語を話す練習をしたことはほとんどありませんでしたので、読み書きは出来ても話す能力が培われていませんでした。同じクラスになった外国人たちは本当によくしゃべります。たとえ発音が正しくなくても、たとえ文法が間違っていても。その姿には非常に感動しましたし、同時に反省もさせられました。私が中国語を話すことに積極的になったのは、その差を思い知らされてからでした。

学食で友人とご飯を食べていたときに知り合った一人の中国人がいました。彼は地方から北京大学に国内留学をしてきた人なのですが、日本語の勉強をしているとのことでしたので、すぐに仲良くなることが出来ました。お互いの作文を添削しあったり、ご飯やカラオケに行ったりと、多くの時間を一緒に過ごし、お互いの語学力に磨きを掛け合った結果、中国に来た当初に比べると話す力は確かに進歩していました。北京大学での部活を通して知り合った中国人とも遊びに出かけて、楽しい時間を過ごす事も少なくありませんでした。文法知識の勉強は一人でも出来ますが、会話となると一人ではどうしようもありません。友人達と楽しく過ごすことが自分の成長に繋がることを考えると、楽しくて仕方ありませんでした。ルームメイトとの仲も非常に良好で、お互いの国の文化、「学習」に対しての認識等、部屋で顔を合わせるたびに共有スペースで語り合ったりと、幸運なことに人間関係においては苦労することはありませんでした。

九寨にて、現地で知り合った中国人学生と（筆者：右）

冬休みに四川旅行へ行ったとき、観光地に来ていた同世代の中国人と一緒に回ったり、ユースホステルで現地人と情報交換したりと、そこでも中国語を楽しく使う機会は多くありました。現在日本と中国の関係は緊張していますが、日本人と中国人の交流でギクシャクすることはほとんどありませんでした。国家間の関係と、人同士の関係は全く同一ではありません。人間関係において言葉を理解し通じさせる力があれば、お互いの国籍は関係ありません、誤解を避けることだって大いに可能です。言葉を学び活用することは、自らの視野を広げ、この世界を楽しむための道具である。そのことに気づかされた留学生活でした。

中国・北京大学

文学部４年　田坂　将洋

筆者（左）と剣道部の呉先生

私が北京大学に留学していた時期は、PM2.5、尖閣諸島問題、反日デモ、円安元高など様々な問題を抱え、激動の一年間であったといえる。そんな中で留学に行く事は、周囲から心配されることもあり、中には留学に反対する人や嘲笑する人もいた。だが、日本を一度離れて一年間中国人と生活を共にすることで、日本にいた時には見えなかった中国を垣間見る事が出来たことは、自分にとってプラスとなった。その点においてこの留学の選択は全く間違っていなかった。

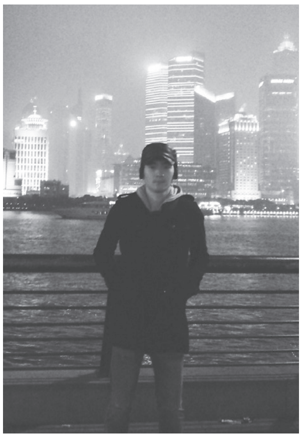
その中で一つ言える事は、日本のメディアが流す中国像と自分が見た中国とは全く違う事。中国人は日本が嫌いだと考えている日本人が多いかもしれない。しかし、私が北京大学内で中国人学生から罵倒された事は一度もなく、むしろ日本に対して好印象を持っている人、日本のファッションやアニメなどの文化に興味がある人も多く、私が勉強で困っている時は親切に助けてくれた。最初北京に来た時には難しいだろうと考えていたが、実際中国人とコミュニケーションを取るのは非常に楽であった。

北京大学と言えば、中国国内で学力はトップクラスの大学であり、国内の学生達は勿論、留学している外国籍の学生も皆勤勉で、彼らとの交流を通して文化、思想、生活の面などあらゆる面で刺激を受けた。前期は対外漢語教育学院で

アメリカ人、フランス人、オランダ人やノルウェー人など世界中の学生達と一緒に中国語を勉強し、後期からは中文系に所属し、古代文化や歴史などの科目を履修した。中国古代史の授業ではプレゼンテーション発表、討論などを通して、高校で学習した内容とは比較にならないくらいの深い知識を得られたので、幼少時から中国史好きの私にとっては大変興味深かった。だが、中文系の授業は専門的な中国語が多い。大学から中国語を始めた自分にとっては難しく、挫折しそうになったが、現地の友達に助けてもらいながら、なんとか単位を取ることが出来た。

また、プライベートでは北京大学の剣道部に加入し、そこでは、剣友は私を家族のように扱ってくれた。彼らと稽古したり、酒を飲んで語りあったり、遠征ではチームを組んで中国人だけでなく韓国人、ロシア人などと対戦した事は、自分の人生の中で貴重な宝物となった。また近いうちに彼らと剣を交える日が来ることであろう。

中国の古い諺に‘朱に交われば赤くなる’という言葉がある。今回の留学を通して北京大学の優秀な本科生達、日本人をはじめ、あらゆる国籍の留学生達と一年間共に切磋琢磨してきたことで、自分は朱に少しでも近づけた。だが、それに満足せず、この経験を活かし、長い目で将来を見据え、更なる勉強をしたいと考えるようになった。それが私の一番の成長だ。


筆者と上海の夜景

最後に、私にこの北京大学留学の機会を与えてくださった二松学舎大学の先生方、私の留学生活をサポートしてくださった職員の方々にお礼を申し上げると共に、少しでも中国に留学を考えている下級生には、躊躇せず是非行くべきだと言いたい。

台湾・中国文化大学

国際政治経済学部４年　角田　陵亮

台東への旅行にて

台湾に行く目的として留学前に考えていたことは、語学の習得、日本ではない異文化の吸収、が挙げられます。私が台湾に到着したばかりのときは、周りから聞こえる言葉はすべて中国語であり、また周りの人間は全く見ず知らずの人ばかりでとても不安になりました。しかし、毎日根気よく勉強を続けているうちに、徐々に周りの人間とのコミュニケーションがスムーズになることを実感することができ、友達を作ることがとても楽しくなりました。私は日本にいる間にかなりしっかり中国語を勉強していたので、友達と会話し、話ができるようにすることに重点を置くことにしました。語学の勉強法として、まずは文法や基本的なフレーズが理解できることが、初期の段階では必要になります。その次の段階として、会話の交換ができるまでにかなり高い壁があるように感じます。私は留学生活を通じてこの壁を越えようと最初の時期はずっと考えていました。

最初のルームメイトは韓国人二人でした。この中の一人は日本語をかなり高いレベルで話すことができ、もう一人の韓国人はすでに半年台湾で生活していたため、中国語もとても上手でした。最初の一学期彼らと生活できたことは、私にとって、とてもよかったと今は思います。母国語をしゃべる相手がおり、中国語のわからないところを、中国語を使って、話合う相手がいて、とても楽しい時間を過ごしました。

彼らが帰国する頃、すでに会話に関してはあまり困りませんでしたが、それでももどかしさを感じており、物事を説明しようとするとうまくいかない、というジレンマがありました。そんなときに、私は友達の台湾人が一人で寮に住んでいるというのを聞いて、その部屋に引越すことにしました。

彼と二人の生活は本当に中国語の勉強になるものでした。私は彼にわからないことは何でも聞きました。また彼と生活を共にすることで、台湾人の生活、好み、習慣などを自分の目で見ることができました。また、台湾は夏が来るのが早いです。四月ごろ暑くなり始めた時に、私たちと共通の友人の香港人が私たちの部屋に、パソコンを抱えて引っ越してきました。文化大学には二つの男子寮があります。ひとつはエアコンが付いており、ひとつはエアコンが付いていません。彼はエアコンが付いてない部屋からエアコンがある私たちの部屋に引越してきました。私たち三人はたくさんの場所に旅行に行き、たくさんの話をしました。この頃の生活は、今思えば真面目な生活といえるものではありませんでしたが、大学で授業を聴いているよりとても意味のある生活だったと思います。彼らから台湾・香港の文化を学び、私は日本の文化を彼らに伝えました。

中国文化大学主催の外国人学生向けパーティにて（筆者：左）

附属柏高校との交流会を実施しました

平成25年11月21日(木)、附属柏高校生との交歓交流会が実施され、同高１年の生徒と本学在籍留学生８名が交流を行いました。今回は全員事前に十分に準備をしたうえで本番に臨んだため、終始リラックスした雰囲気で和やかに交流することができました。

留学生たちはそれぞれの自己紹介を始め、日本へ留学したきっかけや、自分の母国での高校生活、日本の高校生の印象について発表し、若者に人気のスポットの写真や自国のお菓子などを紹介することによって、最初は緊張気味だった高校生たちとも次第に打ち解け、最後の質問コーナーでは時間が足りないと感じる程、盛り上がりました。双方にとって、互いの文化理解を深める貴重な体験となったようです。

国際政治経済学部　国際政治経済学科４年　**魏　嘉葆**

はじめて二松学舎大学附属柏高校の交流会を参加して、楽しかったです。先生と生徒のみなさんと出会えて、よかったと思います。日本に来て５年目です。沢山の日本人の友達ができましたけれど、高校生の友達がいませんので、高校生と話したことがありません。日本の高校生は何を考えているのか全然分かりません。日本の高校生との出会いは緊張しながらも、期待していました。交流会に行く前に、すごく心配しましたが、校舎に着いたら、すぐ今回交流するクラスの担任の先生に会いました。すごくやさしい先生でした。クラスに行く前に、今回私が準備した話の内容について、先生と一回打ち合わせをしました。私の準備した内容の足りないところや、もっとその話について聞きたいところを教えてくれました。本当に助けてくれました。それで、緊張感が半分なくなりました。クラスの生徒も迎えに来て、先生と生徒が私を連れて教室に行きました。教室に入って、びっくりしました。黒板の上に私の名前が書いてあります。そして、「いらっしゃいませ」を中国語に訳して、黒板に書いてありました。感動しました。みなさんは私の話をまじめに聞いてくれました。最後にいろいろな質問をききました。私が答えられないところもたくさんありましたが、高校生たちは全然気にしなかったです。帰るとき、柏の駅前でまたクラスの生徒さんに会いました。私の顔を見たら、すぐあいさつしてくれました。もう友達になりました。文章が短いため、私の気持ちを伝えることが全然できません。またチャンスがあったら、みなさんと会いたいです。

中国の高校生活について紹介する魏嘉葆さん

国際政治経済学部　国際政治経済学科３年　**陳　梅琴**

交流会が残念ながら、終わりました。今度の交流会も去年のように、二松学舎大学の附属高校の一年生と交流しました。去年の交流会は残念なことがいっぱいありました。特に、なかなか余裕がなくて、何も用意できなかったことです。このチャンスはいつもあるわけがないので、今年はお菓子や写真などを用意しました。それでも、やはり足りなかったです。

教室に入るまでは、まだ全然緊張していなかったのですが、その後は緊張してきました。そのせいで、話もうまく行きませんでした。特に自己紹介の時、ドキドキして、恥ずかしかったです。自己紹介が終わってから、やっと、ほっとしました。その後は生徒からの質問に対応できるようになりました。

今度の交流会から、自分は二つのことを感じました。まず、自分は人前で話すのが苦手です。すなわちコミュニケーション力が足りないです。ですから、コミュニケーション力をアップさせる必要があります。もう一つは皆さんの優しさと若さを感じたことです。私が思ったとおり、皆優しくて、活発です。皆の元気さと若さは私にとって羨ましいことです。どうしても、もう昔には戻れません。現在と将来を大事にした方がよいです。今度の交流会では皆協力してくれてありがとうございました。またいつか会いましょう。

笑顔で生徒の質問に答える陳梅琴さん

交換留学生（中国・北京大学）　**劉　千里**

本当に久しぶりに高校に入った。正直、私のハイスクールイメージはまだ５年前の夏のままだ。しかも、今回は日本の学校だった。日本の高校生と交流することができると聞いて、大きな期待を抱いたと同時に、ちょっとした不安もあった。それはなぜかというと、文化の差と年の差があるので、うまくやりとりできるのかどうか心配だった。今から考えてみると、それは余計な心配だった。実際に学校に入って、お互いに話し合った後、来てよかったと実感した。

―田園風景に囲まれた校舎―

最初、柏に行く前に、普通の都市の学校としか思わなかった。しかし、バスに乗って、だんだん町から離れ、田んぼと森が見えてきた。とっても綺麗な風景だった。「これだぞ、これが本来の日本のあるべき姿だ」と思わず声を出した。都市に長年住んでいる人が癒されるほどの景色だった。地元の住民が住みなれた環境は、私たちにとっての救済だ。私はこのような日本が好きだ。人が集まる都心ではなく、このような静かな町が好きだ。

―日本の高校と中国の高校―

交流会では、皆さんに中国の高校生活についていろいろ説明した。皆さんはびっくりしただろう。中国の高校生活を思い出すと本当に辛かった。授業中、クラスの雰囲気もとっても良くて、自分が言ったぜんぜん面白くない冗談を笑ってくれた。午後３時すぎて、学校のベルが校庭に鳴り響いた。下校の知らせだった。その時本当に驚いて、そして羨ましかった。日本のみなさんが本当に幸せだと思った。このような些細な違いから日中文化の違うところも垣間見えてきた。

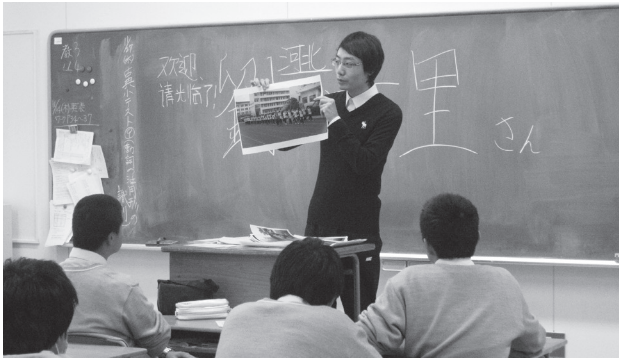
―残念の一言―

正直にいうと、私が本当に見たいのは、日本の高校生の日常生活だった。でも、実現するのは、多分難しいと思う。なぜなら、私は日本人が慣れてきたことにいちいちあっと驚き、その視点が極端に不安定だったからだ。このようなふらふらとした視点から日本人の日常生活を捉えるのはあんまりにも身の程知らずだった。多分、時間に任せれば、何とかなる。それが達成すれば、もっと細かく日本を観察することができるだろう。

―皆さんに送る言葉―

私が日本語の膨大な語彙のなかで一番好きなのは、一期一会という四字熟語だ。私と附属柏高校の皆さんとの交流会はまさにそうだった。めぐりめぐって、皆さんとこういう形で出会った。私にとっての人生の素晴らしい１ページだった。このような思い出がどんどん貯まることは、ちゃんと生きていることの象徴だ。

皆さんもぜひ高校生活を満喫し、いい思い出をいっぱい作ってください。ご縁があれば、またどこかで会えるでしょう。



中国の大学受験について語る劉千里さん

平成25年度国際交流年末懇親会を開催

12月７日(土)、九段校舎13階多目的ホールにて、国際交流年末懇親会が行われました。当日は、留学生や関係教職員をはじめ、父母会役員、学生会をはじめとする国際交流に興味のある日本人学生たちも出席し、総勢75名が賑やかに集いました。渡辺学長からご挨拶を頂き、続けて三輪父母会長による乾杯のご発声でスタート。途中、同日開催された外国人留学生日本語スピーチコンテストの授賞式も行われ、会場中から暖かい祝福を受けました。その後、交換留学生、今年度で卒業・修了予定の留学生、国際交流センター長からのご挨拶があり、盛況のうちに幕を下ろした懇親会。今回も父母会のご援助により盛大に実施できましたことを、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。来年も多くの方々のご参加をお待ちしています。

平成25年度春セメスター派遣留学生紹介

「二松学舎大学交換留学に関する規程」に基づく、海外協定校への１年間の派遣留学です。留学のできる協定校は全部で４校（中国・北京大学、韓国・成均館大学校、台湾・中国文化大学、オーストラリア・シドニー工科大学）あります。協定校によって、応募期間や資格、協定校への授業料の支払い等、派遣条件がそれぞれ異なるので、詳細は「海外留学の手引き2014」を参照ください。

平成26年度派遣留学生

◆韓国・成均館大学校（派遣期間：2014年２月～2015年１月）

文学部中国文学科２年　熊田　　遥

文学部中国文学科２年　佐藤　由佳

留学許可書授与式

（左から山崎副学長、佐藤さん、渡辺学長、熊田さん、武永国際交流センター長）

国際交流センターからのお知らせ

◆ TOEFL-ITP（団体割引）の募集

申込期間　４月１日(月）～４月24日(木)　**実 施 日**　５月17日(土)

◆オーストラリア・韓国（中国・台湾）への派遣留学生募集説明会

場　所　九段キャンパス　**日　時**　４月16日(水)、17日(木)、23日(水)、24日(木)　昼休み

◆夏期　中国語・歴史文化研修募集説明会

場　所　九段キャンパス　**日　時**　５月８日(木)、15日(木)、22日(木)　昼休み

◆夏期　オーストラリア語学研修募集説明会

場　所　九段キャンパス　**日　時**　５月14日(水)、16日(金)、21日(水)　昼休み

編集後記

◇今年度の日本語スピーチコンテストは第10回という節目の大会に相応しく、９名の留学生が参加し、例年以上の盛り上がりを見せました。当日は教職員、父母会役員の皆様をはじめ、多くの方々にご観覧頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。

◇２月末に、２名の派遣留学生が韓国・成均館大学校に旅立ちました。１年間、異国の文化を肌で感じ、成長して帰ってくる日を楽しみにしています。

◇本誌へのご意見・ご感想をお寄せください。

E-mail：icenter1@nishogakusha-u.ac.jp